

コーセー イノベーション創出拠点 『コロラボ』が本格稼働

コーセーは、日本橋本社の一部改装に際し、社内外のコミュニケーションやコラボレーションの活性化によって、柔軟な発想によるアイデア創出やセレンディピティを誘発させることで、新たな価値創出を狙う多目的スペース「KooCoLabo」(「コロラボ」)を本格稼働させた。本格稼働を機に、様々なイノベーションを誘発できる取り組みを強化し、多様な人、情報、アイデアの融合により、顧客の期待を超えるモノづくり、「トビウオ」を進めるとともにその基盤となる「トビウオ」を推進していく。

同社はこれまで、「コロ」集積、社員の成長を促すイベントなどを実施する「モノづくり」の王子研究所、「ヒトづくり」の王子研修センターを都内王子に配置し、有機的かつ機動的に連携してきたが、今後のより一層の飛躍に向け、グローバル戦略を支える多様性を育み、社内外の幅広い知見を活かすオープンイノベーションを加速させ、常識に囚われない柔軟な発想による顧客提供価値の創出を推進することができるとして、新たに今年3月、日本橋本社7階に「コロラボ」を開設していた。

コロラボは、「KooSei Collaboration Laboratory」の頭文字をとって命名したもので、社員のリフレッシュや情報交換の場、セミナーの開催、試作品の評価や新ビジネスのPOC(実証実験)の場として活用していく。



「外注フェスタ」は、取引先の独自技術と同事業のアイデアを結びつける機会創出の場として、毎年2回のペースで開催されてきた。取引先各社が見本品を並べ、社内の担当者から話を聞き、議論することもできる見本市で、今回も原料から容器、海外から取り寄せられたアイデアなど、数々の新規性のある技術などが並んだ。

今回は、コロナ禍にも関わらず国内外20社以上の取引先から約200品の技術が集まり、同社の企画をはじめとした様々な部門のメンバーが社内イントラネットなどもフル活用することで多数参加し、新たな製品の種を多く生み出している。

「研究アイデア提案会議」は、年に2回開催され、通常の業務から離れ、制約の壁を取り払い、各個人の自由な発想で個性を活かした斬新なアイデアを試作品やプレゼンテーションの形で展示している。

「外注フェスタ」は、日本橋本社「コロラボ」にて行うことで、今までイベントに参加していなかった社員も集まり、例年以上に双方の情報交換が行われた。

「研究アイデア提案会議」は、年々2回開催され、通常の業務から離れ、制約の壁を取り払い、各個人の自由な発想で個性を活かした斬新なアイデアを試作品やプレゼンテーションの形で展示している。

ペットボトルの キャップを再生し、 化粧品容器に利用



ファンケルは、キリンとの資本業務提携後、SDGsへの貢献を含めた環境配慮の観点を持つ容器や包装資材の設計や生産での協業を積極的に検討してきたが、このほど、キリングループのキリンビバレッジにてペットボトル入り清涼飲料の生産時に排出されるキャップを再生樹脂に加工した素材を、ファンケルのグループ会社であるアテナの化粧品容器の一部に採用することを決定した。

ペットボトルのキャップを解決して製品への応用を大量生産する際の初期段階や生産中、製造する製品の切り替え時に、そのまま利用できないキャップが排出されることに着目し、この樹脂を再生利用して化粧品容器に再生利用できないか検討を進め、再利用に向けては数点の課題を要したが、それら

これによりキリンビバレッジはペットボトルのキャップの約3〜4割を再利用することができ、廃棄物による環境負荷を低減することが可能となる。

またアテナにおいては、再生樹脂を採用することで、従来製品に使用していた新規プラスチック量の約40%を削減することができる。

アテナは環境を配慮し、ボトルタイプに比べて樹脂量を約85%削減できるフィルムパウチを使用したクレンジングオイルのレフィル製品「スキンクリアクレンジングオイル」を販売している。

今回さらなる環境への配慮を踏まえ、ポリエチレン製「パウト部」に、ペットボトルのキャップ由来する再生樹脂を採用した。

再生樹脂の製造方法は、キリンビバレッジが選別回収したペットボ

ルのキャップの印刷を専用の機器で除去、粉砕してフレイク状にした後、溶解、混合してペレット状にしたものをさらに溶解し、色素を加えて再生樹脂にしたものを成型して完成させる。

再生樹脂として使用するには、キャップの選別や印刷の除去工程などに手間がかかるが、化粧品容器メーカーの協力を得て国内化粧品業界では初の試みとして実現するに至った。

今後もキリンビバレッジで排出されるペットボトルのキャップについて、ファンケルグループのポリエチレンを使用した製品パーツへ応用することを検討していく。

また、コロナ禍による働き方の変化で不足しがちな社員のコミュニケーションを補う役割も担いつつ、社内外の幅広い情報や知識、スキルの習得につながるコンテンツの